

# 最もありふれた国民病・がん

Dr.

## 和



「がんの基礎知識」シリーズ①



長尾和宏 (ながお・かずひろ)  
東京医大卒業後、大阪大第二内  
科入局。平成7年、尼崎市で「長  
尾クリニック」を開業。外来診療  
から在宅医療まで「人を診る、  
総合診療を目指す。医学博士。近著  
「平穏死・10の条件」「胃ろうと  
いう選択、しない選択」はいずれ  
もベストセラー。関西国際大学、  
東京医科大学客員教授。57歳。

それにしても暑い毎日です  
ね。クーラーをつけないで我  
慢している方、熱中症になる  
ので気をつけてください。な  
んとなくダルい、と思ったら  
もう熱中症という場合もあり  
ます。  
さて、日本人は2人に1人  
が一生のうち一度はがんにな  
ります。そして3人に1人は  
がんで死んでいます。今、こ  
の記事を読んでみるみなさん  
も50%の確率でがんになるの  
です。あまり実感がなくても  
しれませんが、紛れもない現  
実です。

がんは最もありふれた病  
気。珍しくもなんともありま  
せん。しかし、いざ自分にが  
んが見つかったら、みなさん  
大騒ぎです。「どうして私  
が」「なんにも悪いことしてい  
ないのに」「死ぬのかなあ」  
と右往左往します。  
がんセンターの一番偉い先  
生でさえ、「がんセンターの  
医者ががんになって初めて分  
かったこと」という本を書き

## 「がんもどき」はあるのか？

ますが「じゃあ、今まで患者  
の気持ちを分かんずにやって  
いたの？」と突っ込みたくも  
なります。人間は、なんでも  
自分だけは例外だと思ってい  
ます。自分だけががんになら  
ないし、死なない。それくら  
い楽観的なので、少々辛いこ  
とがあっても生きられるのが  
人間なのかもしれません。  
今日からしばらく、「がん  
の基礎知識」シリーズとし  
て、知っているようで知らな  
いがんのお話をします。い  
ざ、がんと言われた時に慌て  
ないためにも、ぜひ読んで、

普段から備えておいてくださ  
い。  
さて、この3年ほど、「が  
んもどき」とか「がんは放置  
したほうがいい」という本が  
軒並み売れています。すべ  
て、慶応大学・元講師の近藤  
誠医師が書かれた本です。最  
近は「医者に殺される」「薬  
に殺される」などとエスカレ  
ートし、多くのメディアが取  
りあげ市民の支持を得ている  
ようです。  
現実にはがんの宣告を受けた  
人は、まずがんに関する知識  
を得ようと書店に駆け込み、

「がんもどき理論」に基づいた  
「がん放置療法」は、近藤誠理論と呼ばれてい  
る。近藤氏が書いた一般書はベストセラーになってい  
るが、医学論文としては発表されていないので医学界  
では認知されていない。  
がんに関する本を買い求めま  
構あります。  
「ゆっくりがん」、「のん  
びりがん」は放っておいても  
なかなか死にません。甲状腺  
がんや前立腺がんなどがその  
代表です。  
一方、近藤氏は「本物のが  
ん」という言葉も使います。  
初期の段階から全身のあちこ  
ちに転移しているタチの悪い  
がんのことだそうですが、こ  
れも存在します。どちらか  
い、だから全てのがんは放置  
せよ」と言うから話がおかし  
くなるのです。  
実は、その両者の間にあた  
るものは、いくらでもあるの  
です。国民的支持を得ている  
近藤誠理論の真偽に興味のあ  
る方は、今週発売の拙書、  
「長尾先生、近藤誠理論のど  
こが間違っているのですか  
？」（ブックマン社）をぜひ  
読んでください。漫画を交え  
ながら、後悔しないがんとの  
付き合い方をわかりやすく解  
説しています。